

2023年度 事業・活動計画

2023年度 予算計画

2023年度 事業・活動計画

2023年度ハイライト

- 寄付カードゲーム「from Me」や、韓国事業社と共に実施するアウトカムファンド事業をはじめとする海外連携事業といった、寄付やインパクト投資が促進される新規の事業、取り組みの立ち上げと着実な実行
- FRJやラーニングシステム等での学びや価値のご提供において、対面、オンラインの各々の利点を見極め、参加者や受講者にとって最適な方法での実施の実現
- 組織の健全な運営と生産性向上の継続的な追究

2023年は、長かったコロナ禍を抜けだし、社会全体が新しい社会環境で、対面、リアルといった人と人との接点の価値を改めて問い直す時期となる。共感性を重んじるソーシャルセクターにおいては、より一層の課題解決に向けて、人との交流の価値を大切にしていきたい。折しも、非営利セクターに対する社会の目も厳しくなっている。セクターが一体となって信頼性の向上を図ると共に、寄付の持つ価値と力への理解の促進、社会的インパクトの最大化に邁進する1年としていきたい。

当協会でも、2023年度から新たにエコシステムプロジェクトでのファンドレイジング実践プログラム、社会貢献教育での寄付カードゲーム「from Me」、社会的インパクトセンターでの海外連携事業、また、新しい研修としてアドボカシー人材育成のための研修プログラム等に取り組む予定で、セクターの仲間の皆さんとともに、社会でのファンドレイジング、寄付、インパクト投資の機運と価値を高めていきたい。

また、協会としては、2024年2月に迎える15周年に向けての自らの価値を改めて問い直していきたい。

エコシステムプロジェクト

◇2023年度目標

- 新たに誕生した専門ファンドレイザーをはじめとするファンドレイザーに挑戦と活躍の場を提供し、その活躍の可視化を行う。
- ファンドレイジングが当たり前となり、新たなプロジェクトが自由に生まれるような環境の醸成を行う。

◇具体的な取り組み

- 専門ファンドレイザーが活躍でき、団体のファンドレイジング力の向上を支援する、ファンドレイジング実践プログラムを新にスタートさせ、ファンドレイジングの成功体験を提供するとともに、ファンドレイザーの活躍の可視化を図っていく。
- 専門領域の研修がサステナブルに維持・運営されていくようなスキームを確立させていく。
- ファンドレイジングを起点としたエコシステムの発展を可視化し、多様なプレイヤーが自由な発想で連携していくような土壌を作り上げていく。

◇実現したい状態

- エコシステムで生まれた芽が、社会への価値提供とつながることが実感できるような連携が多く生まれてくる。

ファンドレイジング・日本(FRJ2024)

◇2023年度目標

- 学びと発表の場でありコミュニティのつながりを作り深める場としてのFRJを、対面、オンラインの両面から考え、実現する。

◇具体的な取り組み

- 対面、オンライン、双方の利点を活かした学びと偶発的な出会いの場の創造を行う。

- ファンドレイジングのソリューションを提供する企業とファンドレイザーの出会いとビジネス創出が起こる、マーケットプレイスとしてのFRJの価値の追究する。
- 2024年2月18日の協会15周年に向けて、協会が提供していく価値創造の発表を行えるような企画を立案していく。

◇実現したい状態

- 仲間とつながり、学び合う価値が享受でき、偶発的な出会いと新しいアイデアが創出される場としてFRJが機能している。
- FRJの場で、新しいプレイヤーが見いだされ、評価され、成長していく循環をつくる。

ファンドレイザー育成事業

◇2023年度目標

- 「認定ファンドレイザー必修研修のテキスト」の改訂を行い、最新のファンドレイジングの手法や知見を取り入れる。
- ラーニングシステムを徹底活用し、一人ひとりのニーズに応じた情報発信や学びの提供、つながりの提供を通じて、ファンドレイジングの実践をサポートする。
- ファンドレイザーが組織や社会にもたらす成果やロールモデルを可視化し、ファンドレイザーの認知向上に貢献する。

◇具体的な取り組み

- 研修コンテンツの拡充を行う。
- ファンドレイザー同士の交流の場を創出する。
- ファンドレイジングを実践したい組織向けに情報提供を行う。

◇実現したい状態

- ファンドレイジングを学んだ個人が、学びやつながりを活かしてキャリアの可能性が広がっている状態を目指す。
- 非営利組織が多様な財源や人材を確保し、組織が成長している状態を目指す。

寄付調査・寄付白書事業

◇2023年度目標

- 寄付研究促進のための具体的な施策に着手し、実行されることにより、日本社会の中での寄付への理解が向上される。

◇具体的な取り組み

- 寄付調査に関する懸賞論文の応募と公開を行う。
- 寄付研究グローバルアーカイブを公開していく。
- 2022年度に制作をした寄付市場予測レポートを解説するYouTube動画の制作と発信を行う。
- 調査研究・白書のwebページのアップデートを行い、情報提供に努める。

◇実現したい状態

- 2022年度に策定した寄付の本質的理解と価値を明らかにする研究を促進するための戦略ロードマップが動き出していくことにより、日本社会での寄付への理解が促進され、その役割と力が実感されるようになる。

寄付市場創造事業 – 社会貢献教育

◇2023年度目標

- 寄付カードゲーム「from Me」のポジショニングとブランディングを確立させる。
- 社会貢献教育を推進する人材(ファシリテーター(FT)、教員)の拡大と質の向上を図る。

- 基本教材コンテンツの学校や地域での普及による実施数の拡大をはかる。
- 安定運営のための財源の仕組み化に取り組む。

◇具体的な取り組み

- 寄付カードゲーム「from Me」公認FTの養成、体験会の開催、企業や団体での研修の展開を進める。
- 社会貢献教育ポータルサイトへの情報集約と活用されるためのブランディング施策を図る。
- 教員へのLbG実施支援とノウハウ移転のための研修の提供を行う。
- FTの活動事例の収集と発信やつなぎ連携の促進を行う。
- 大学生・高校生の社会貢献教育コミュニティの形成を進める。

◇実現したい状態

- 教員、生徒、ファシリテーターをつなぎ、協働を促せる場が創出される。
- カードゲームを通じた新たな層の参加と当協会の他の事業とのシナジーが創出される。

社会的インパクトセンター

◇2023年度目標

- 海外連携によるインパクト志向の新しい資金提供モデルの構築を行う。
- 日本・アジアとのベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成を行う。
- 社会的インパクト評価／マネジメントの普及と推進を行う。
- 法人連携チームを通じた各部署とのシナジーの強化を行い、ファンドレイジング×社会的インパクト・マネジメントをテーマに付加価値の高い研修や伴走支援を行う。

◇具体的な取り組み

- 韓国SKグループの企業財団であるCenter for Social value Enhancement Studies(CSES)との協働によるアウトカムファンド事業を実施する。
- AVPN(Asian Venture Philanthropy Network)の日本事務局を担い、日本・アジアにおけるベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成を行う。
- 社会的インパクト評価／マネジメントに関する研修・伴走支援を提供する。
- 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(SIMI)を通じた金融機関向けインパクト・アナリスト研修及びSDGインパクト基準研修等を実施する。
- 法人連携チームにおける部署連携による研修・伴走支援等を実施する。

◇実現した状態

- 新しい資金提供モデルであるアウトカムファンドによりインパクトの創出と日本社会のインパクト志向化を加速させる。
- ベンチャーフィランソロピー・インパクト投資を行う財団等とのコミュニティを創出し、インパクト志向のお金の流れを加速させる。
- 事業者において社会的インパクト評価／マネジメントの実践が当たり前に行われる状態を目指す。
- ファンドレイジング×社会的インパクト・マネジメントをテーマにした協会だからこそ提供できる付加価値の高い研修や伴走支援が提供できるようになる。

組織運営

法人連携

◇2023年度目標

- 各分野の中間支援団体と連携し、ファンドレイジングエコシステムの構築を図る。

- スペシャルパートナー、法人会員を軸として、協会との関係性を深めていく仕組みの確立を図る。

◇具体的な取り組み

- パートナー組織(分野の中間支援)との協働で、プロジェクト化を通じたファンドレイジングエコシステムの可視化と対話の場を構築していく。その上で、ファンドレイジングが必要な組織に、ノウハウを届ける取り組みを実施する。
- 協会の法人会員情報等、法人連携に関する内容を一カ所に集めて情報提供できるようHPのアップデートを行う。メルマガだけでなく、コミュニケーションがとれるようなイベントや研修会等を実施し、法人会員の皆さんのお声をお聞きする機会を設けていく。

広報

◇2023年度目標

- ファンドレイジングの領域の幅広さや多様なキャリアの可能性を、分かりやすくかつ本質的な理解を広める

◇具体的な取り組み

- SNS、動画コンテンツ、テキストコンテンツなど様々な媒体を組み合わせ、幅広い層にファンドレイジングの可能性を伝える。

会員

◇2023年度目標

- 一人ひとりの会員が自由に活動や勉強会を企画できるコミュニティの土壌を作り上げる。

◇具体的な取り組み

- 様々な人が自身のアイデアや意見を自由に発表できる場とどんな人でも参加できるオープンな場をつくり、会員同士が支え合い、刺激し合う場を共有する。

事務局運営

◇2023年度目標

- 組織スタッフ、TeamJFRAメンバーが、つながり助け合いながら、チーミングできるような場作り、組織作りを行っていく。その上で、健全な労働環境の提供と維持を心がける。
- コンプライアンス、ダイバーシティーに対応したオペレーションの実現を図る。

◇具体的な取り組み

- 意識的に、対面での会話の機会を定期的に設けていく。
- 2021年に実施したスタッフの職場環境調査を再度実施し、改善の進捗、見直しを実施する。
- 人材育成、チームビルディングへの積極的な取り組みを行っていく。

2023年度 予算計画

活動予算書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

運営会員受取会費 1,080,000
賛同会員受取会費 31,280,000 32,360,000

【受取寄付金】

受取一般寄付金 810,000
Giving Japan基金 1,000,000
寄付教育推進寄付 3,154,000
ファンドレイジングスクール奨学金寄付 395,000 5,359,000

【受取助成金等】

受取助成金 75,000,000
受取補助金 7,000,000 82,000,000

【事業収益】

事業 収益 138,631,000

【その他収益】

受取 利息 1,000

経常収益 計

258,351,000

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業) 38,330,000
役員 報酬(事業) 8,120,000
補助作業員給与 2,450,000
通勤 費(事業) 320,000
法定福利費(事業) 6,516,000
人件費計 55,736,000

(その他経費)

売上 原価 3,436,000
業務委託費(事業) 53,170,000
諸 謝 金 13,166,000
印刷製本費(事業) 700,000
会 議 費(事業) 680,000
広告宣伝費(事業) 1,500,000
旅費交通費(事業) 3,098,000
通信運搬費(事業) 559,000
水道光熱費(事業) 0
地代 家賃(事業) 0
会 場 費(事業) 6,255,000
減価償却費(事業) 880,000
諸 会 費(事業) 0
租税 公課(事業) 0
研 修 費(事業) 0
支払手数料(事業) 0
支払寄付金(事業) 43,000,000
雑 費(事業) 700,000
その他経費計 127,144,000

事業費 計

182,880,000

【管理費】

(人件費)

給料 手当 16,427,000
役員 報酬 3,480,000
補助作業員給与 1,050,000
退職給付費用 228,000
通勤 費 80,000
法定福利費 2,793,000
福利厚生費 500,000
人件費計 24,558,000

(その他経費)

印刷製本費 0

会議費	150,000		
旅費交通費	2,000,000		
業務委託費	20,390,000		
研修費	500,000		
通信運搬費	2,280,000		
備品消耗品費	1,283,000		
水道光熱費	300,000		
地代家賃	4,680,000		
広告宣伝費	0		
新聞図書費	42,000		
減価償却費	2,402,000		
保険料	50,000		
諸会費	800,000		
租税公課	6,600,000		
支払手数料	7,002,000		
支払利息	300,000		
雑費	201,000		
その他経費計	48,980,000		
管理費計		73,538,000	
経常費用計			256,418,000
当期経常増減額			1,933,000
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			1,933,000
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			1,863,000
前期繰越正味財産額			81,492,534
次期繰越正味財産額			83,355,534

2023年度予算 内訳

										[税込] (単位:円)
科目	フッドレイトン大会	ファンドレイザー育成事業 (賞格制度、研修、スクール)	寄付白書	社会貢献教育	寄付社会創造事業	社会的インパクトセンター事業	その他事業	事業費合計	管理	合計
【受取会費】										
運営会費受取会費									1,080,000	1,080,000
賛同会費受取会費									31,280,000	31,280,000
【受取寄付金】										0
受取一般寄付金	500,000			0				500,000	310,000	810,000
Giving Japan基金			1,000,000					1,000,000		1,000,000
寄付教育				3,154,000				3,154,000		3,154,000
FCS奨学金		395,000						395,000		395,000
【受取助成金】								0		0
受取助成金		2,052,000	1,000,000	17,500,000	3,500,000	57,942,000		82,000,000		82,000,000
【事業収益】								0		0
事業収益	20,820,000	44,988,000	987,000	18,987,000	12,595,000	40,418,000	0	138,831,000		138,831,000
【その他収益】								0		0
受取利息								0	1,000	1,000
売上計	21,180,000	47,439,000	2,987,000	39,821,000	16,095,000	98,358,000	0	225,680,000	32,671,000	258,351,000
(人件費)										
役員手当								8,120,000	3,480,000	11,600,000
給料手当								39,328,900	16,427,100	54,757,000
補助作業者給与								2,450,000	1,050,000	3,500,000
退職金給付費用									228,000	228,000
通勤費								320,000	80,000	400,000
法定福利費								6,516,300	2,782,700	9,309,000
福利厚生費									500,000	500,000
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	55,736,200	24,557,600	80,294,000
(その他経費)										
売上原価			918,000	2,520,000				3,438,000		3,438,000
業務委託費	8,000,000	7,009,000	500,000	14,895,000	10,510,000	52,456,000	0	93,170,000	20,779,000	113,949,000
謝礼金	100,000	5,255,000	1,200,000	5,011,000	700,000	900,000	0	13,166,000		13,166,000
印刷製本費		530,000		148,000		22,000	0	700,000	0	700,000
会議費	800,000		0		20,000		0	880,000	150,000	1,030,000
広告宣伝費	200,000	800,000	200,000	500,000	0		0	1,500,000	0	1,500,000
旅費交通費	20,000	99,000	0	2,289,000	0	850,000	0	3,098,000	2,000,000	5,098,000
通信運搬費	50,000	185,000	10,000	290,000	14,000	0		559,000	2,280,000	2,839,000
備品消耗品費									1,283,000	1,283,000
新聞図書費									42,000	42,000
水道光熱費								0	300,000	300,000
地代家賃								0	4,880,000	4,880,000
会場費	3,500,000	0		1,420,000		1,200,000	0	6,180,000	75,000	6,255,000
減価償却				878,000				878,000	2,402,000	3,280,000
保険料								0	50,000	50,000
雑会費								0	800,000	800,000
租税公課								0	6,800,000	6,800,000
研修費								0	500,000	500,000
寄付金(助成金)				3,000,000		0		3,000,000	0	3,000,000
安松手数料								0	7,035,000	7,035,000
為替差損										
安松利息								0	300,000	300,000
雑費	500,000	120,000	20,000	80,000				700,000	201,000	901,000
その他経費計	13,030,000	13,308,000	2,848,000	30,351,000	11,304,000	55,228,000	0	127,067,000	49,477,000	176,544,000
合計	13,030,000	13,308,000	2,848,000	30,351,000	11,304,000	55,228,000	0	182,803,200	74,034,800	256,838,000
当期経常増減額	8,150,000	33,631,000	141,000	8,770,000	4,791,000	43,130,000	0	42,876,800	-41,363,800	1,513,000